

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	株式会社 ウエル		
事業所名	なんてん伊在荘	ユニット名	やまかぜ
所在地	宮城県仙台市若林区蒲町5-1		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 17 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 6 年 3 月 22 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

5類になり少しづつ面会を玄関先で行える様になってきました。居室内には、入れる制限を社内で設けているためほとんどの方は、玄関先での対面面会をお願いしています。事業所内での事業所内での楽しいで頂けるような行事等を考え実施しております。その様子をブログを活用したり毎月のご家族のお手紙に載せることで現状のお知らせをしております。また、会社のホームページにブログを載せているためそちらの方をご覧になって申し込みに来ていただけたたりしております。今後も、楽しんで頂けている様子を伊在荘側からも発信しながら安心安全に楽しく過ごしていただける様にしたいと思っております。ご家族様・地域の方をお招きしての行事が行える様に機会を作りたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道4号線バイパスの東側に位置するホームは、1階に2ユニットが、2階に1ユニットと事務所がある。伊在地区から蒲町地区に移転して3年になろうとしていて、地域との繋がりが少しずつ広がっている。ホーム内で集めたプルタブを届けた縁が繋がりに、隣の保育園の夏祭りに参加した。ホームの夕涼み花火大会の様子や、入居者が参加した七夕飾りが一番町商店街に飾られている様子をブログで見る事が出来る。すべての入居者の事を知る為に、職員は3ユニットを回り入居者に朝の挨拶をする事が日課となっている。清潔に整えられた各ユニットは歌声や笑い声が聞かれ、お互いを思い合う優しい介護を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘**)「ユニット名 **やまかぜ** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をもとに毎年、ユニットの理念を会議などの職員同士の話し合いを通して構築しユニットの見えるところに掲示し共有している。	11月を年度当初とし、法人理念や毎年検討しているユニット理念を朝礼で唱和している。出来ないからと諦める事なく、具体策を本人目線で工夫している。手に触れ足を擦り、不安な気持ちに寄り添っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しづつ地域の行事が行えるようになってきて、町内会にも参加させて、貰えるようになってきている。連合会長さんにも、お声がけを頂いている。また、交番にも入居者様の写真をファイリングしおかせていただいている。	保育園児がホーム駐車場で神輿担ぎを披露し、ラムネや水ヨーヨー等のお土産をくれた。入居者は園児達の手を取り、折り紙を渡して大喜びだった。2～3か月に1回のネイルボランティアの来訪を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	三幸学園さんの施設実習を受け入れや、中学生の職場体験などの受け入れ行いながら、認知症を理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	伊在サロンという形で運営推進会議を行っていたが現在はコロナ禍で実際に集まる事が出来ないが議事録などを送り地域の方やご家族の方と情報交換を行っている。意見などを運営に活かさせて頂いている。	「伊在サロン」として書面会議を年6回開催した。メンバーの町内会長や地域包括職員、家族へ会議録を送付した。行事の工夫に「イベントの楽しさが伝わった」やケアへの労いの言葉等の意見があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録をお送りし事業所の現状をお伝えしている。地域のケア会議方には、参加し情報交換を行っている。	市発行のオムツ券の申請代行をしている。区役所主催の8050問題を取り上げた研修や地域包括主催の「虐待について」の研修に参加した。地域包括職員から認知症カフェへの誘いがあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルや書物・ネットなどの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また、拘束になりうる事態を日ごろの業務の中でスタッフ間で話し合っている。	研修や委員会活動に力を入れている。年4回の委員会で3つの要件や11項目を毎回復習している。職員同士で原因や背景を探る話し合いをし、身体拘束をしないケアに努めている。外出傾向のある方もおり、近隣住民や交番の協力を貰っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所のマニュアルや書物・ネットなどの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また現場でも注意をお互いに呼びかけている。	「虐待の芽チェックリスト」を使い振り返りを行っている。管理者はスピーチロックについて問い掛け、言い換え言葉の提案をしている。ユニットリーダーが職員の迷いを受け止め、安心してケアに当たられるよう話を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している利用者様もいるため権利擁護に関する研修にはスタッフが平等に参加できる様に配慮し事業所全体で情報を共有している。各ユニットに資料を配布して、スタッフ全員が見れる様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご家族様と話し合いをしたり契約時は時間を設け重要事項説明書をもとに説明を行い理解頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のご意見や面会時にご家族や地域から意見を頂き、みんなで話し合い早期解決に努めている。	「娘の結婚式に参列させたい」の要望に、両人や親族が晴れ着のまま来訪し、タキシード姿の本人や入居者、職員が迎え入れた。家族の意見を検討工夫し、ホームのケアの質の向上と一体感の共有に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回リーダー会議や全体会議を行い、スタッフからの意見を取り上げている。普段からのスタッフ間のコミュニケーションも充実させ意見を出しやすい環境作りを行っている。	医療に特化した申送りノートを提案し、効率化に繋がった。錠剤が飲み込みにくい方の為に潰す器具を購入した。実務者研修の全額負担や、ケアマネジャー資格更新の一部負担等の制度がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表を活用している。個人面談を行い目標設定し定期的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の資格制度をすすんで活用してもらえるように声がけし、社内や外部の研修には平等に参加できるようにシフト調整を行っている。新人教育には、新人教育のマニュアルを活用し統一した育成が出来るようにしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し情報交換をしたり、同業者が行う研修会に参加している。また、社内でも他事業所合同での研修会を少しづつ行っている。	法人の職員が参加する研修会で勉強や交流をしている。専門学校施設実習生を受け入れた。調剤薬局の薬剤師の来訪時に服薬の相談をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に入居前に不安な事・要望などを聞き出したりご家族様からも聞いたりして入居後の関係作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様から、どの様に過ごして頂きたいかなど要望を聞きながら、ご家族様の不安などを聞き出し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査の際にご家族から話を伺った情報・前のケアマネージャーの情報をもとにケアプランを作成しご本人にあったケアプランを作成していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることをお願いし生きがいへと繋げている。ユニット内でもそれぞれ得意な役割として共に暮らしている実感を感じていただける様に対応している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関係を把握しながら、来所時には普段の様子を報告し、ケアプラン作成時にはご家族の意見も取り入れている。また、協力体制してもらえ事を確認しながら行っている。また、毎月本人の様子を手紙で郵送している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、本人のなじみの物を用意して頂き安心できる環境を作っている。また、面会が難しい場合などの方には、電話にてお話して頂いている。	友人や家族、親戚、兄弟等が面会に来る。ジルさんと呼ばれる美容師の1ヵ月半毎の来訪を楽しみにしている。入居者が他ユニットを相互に訪問できるように支援している。仏壇に向い亡き妻や両親に挨拶をする方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の相性を考え席のレイアウトを工夫し利用者様同士が関わりを持てる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	薬の調整入院された方で、入院期間が長くなり施設退所された方でもご家族から相談の電話が入ることもありご家族の不安等を聞いている。また、本人の状態を把握し状態により今後についての話し合いをしたりするケースがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から本人の思いを汲みとりケアプランに活かしている。本人が困難な場合は、うれしい時の表情だったりを意向に繋げたり、ご家族に聞いている。	入居者一人ひとりを把握し、思いを引き出している。使った器具の洗浄を気にする元ケーキ屋さんに、「もう洗った」と伝えて安心してもらっている。家族の協力を得て、昔の行動や好み、呼称等を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を利用したり、本人との日ごろの会話から得た情報やご家族に聞いた情報などを活かし生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や個人記録に一日の様子を記録して把握している。特に本人の様子変化については詳しく記録してミーティング等でも情報を共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングでモニタリングを行っている。スタッフから意見をもらい、ご本人やご家族に聞いたりしながら意見をもらってケアプランに反映させている。	6ヵ月毎や状態変化時に見直している。「歩けるように」の家族の要望で、足踏み体操10回をプランに入れた。本人希望の家事を計画に入れた方は割烹着を着て調理に臨んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にはケアプランを意識した記録を記入し特に変化があるときには詳しく記入しスタッフ間で共有している。申し送り・送りノートを活用し、それを実践しながらミーティングにてカンファレンスをしケアの方向性を統一している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	保育園の行事に参加出来る様になってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年から、近隣の保育園の方から夏祭りに参加させてもらい、少しずつ交流を図れるようになってきている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を希望しているか往診や通院時等にご家族やご本人の考えを聞き希望に添えるようにしている。	月2回の訪問診療が2カ所あり、全入居者が診察を受けている。専門医受診は協力医の紹介状を持参し、家族対応が基本で職員が同行する事もある。看護師が毎週来訪し、本人や家族の安心となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回、訪看を利用し日ごろの様子を伝え相談しアドバイスを頂いている。また、それを主治医に伝え情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを病院に提出し、面会ができない為電話連絡をし状態を聞いている。また、ご家族へも手紙や電話連絡しその後の動きについてスムーズに対応できるようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意書を説明しご家族の考えを聞き同意を得ている。また、往診の医師が判断した時はご家族に医師から説明して頂き確認している。ご家族も気持ちが変わる場合があるのでその都度確認している。	入居時に重度化した場合の説明をしている。看取り期に入った時は医師から説明がある。半年で5名の方を看取った。管理者が協力医から看取りについての話を聞き、職員に伝達研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変したときの連絡順番はいつも確認している。急変時の対応マニュアルをミーティング時などに改めて見直ししている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行を行っているが、地域の方へご協力願いやご家族様参加へとは出来ていない。	夜間の火災と水害の訓練を行った。「2階からの避難は更に検討が必要」や「転倒や転落、離脱等に備える見守りの役割が重要」等の意見があった。3月に地域住民に知らせる消防署立会いの訓練を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の排泄介助の際の声がけや対応に配慮しつつも尊敬の念を持ち対応している。	「さん」付けが多いが、「会長」や「長さん」等の方もいる。職員は入居者に架空の名前で呼び掛けられても、話を合わせてその役を演じている。トイレ誘導時は「ちょっと行きましょうか」等の声がけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方・その方に合った話しやすい声がけの仕方や選択しやすい言葉を選びジェスチャーを交え、話や答える様に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の一日の流れを把握してそれぞれのペースに合わせたケアを行っている。また、会話の中から本人のやりたい事を探り出来るだけ希望に添えるように行っている。体調やその日の気分が出来ない場合は予定を変えて希望に沿ってケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択できる方には自ら書いていただき難しい方には選びやすい方法で選んで頂いている。時々、ネイルボランティアが来て、利用者様へネイルをしてくださる。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事だけではなく食後にも、ご本人様が出る食器拭き・テーブル拭き・食器の片づけなど役割を持っていただいている。	朝夕食は配食業者を利用し、昼食は好きな物を作っている。ハンバーガーやカップ麺等が人気である。3ユニット合同のバーベキュー芋煮会で、男性の入居者が一緒に作り、皆で楽しんだ。ホットケーキを焼く方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他業者からバランスの取れた食事を提供し、ミキサー食やおかゆ食やムース食など利用者一人一人に合わせた形状にし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来る方には声がけして自立支援を行っている。また、マウスウォッシュなどを使って口腔ケアを行っている。口腔ケアを利用している方は、衛生士さんからアドバイスを頂きながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導やオムツ交換を行っている。	リハパンの方が多く、パッドの汚れが無いよう誘導している。ほぼ寝たきりの方が2人介助でトイレで排泄出来た。夜間は歩行を見守る方やセンサーを使って立ち上がり時から介助する方等それぞれの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼る前に、水分不足ではないか？お腹の張りはどうか？などを見ながら、オリゴ糖や冷たい牛乳などで排便を促している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者様の希望や状態に合わせて時間を調整し利用者様の気持ちによって変更している。	入浴は週2回である。湯は一人ひとり換え、温度は好みに合わせている。本人の前に立たない、タオルを掛ける等で羞恥心に配慮している。浴室や脱衣所は暖められている。歌を歌い、職員と合唱する事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さまの要望や体調に合わせて休息して頂いたり夜間の安眠のため室温管理、見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の服用しているお薬の成分や効能などをスタッフ一人一人把握し状況に応じて主治医や薬剤師に相談し、投薬している。服薬変更時は送りノートなどにも記載しスタッフ全員が把握出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さまの出来る事などを把握し洗濯・食器拭き・掃除・植木の水やりなど無理のない範囲でお願いすることで意欲に繋げている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人ごみを裂けて頂いたりとお願ひしながらではありますが、個人的な外出支援についてはご家族様と相談し外出して頂いている。全体では季節が感じられるように野外での企画を考え提供している。	近くの中学校やゴルフ場に散歩し桜を見た。散歩帰りに自販機でジュースを買う方や、家族と墓参りや通院等に出かける方がいる。ペランダで日光浴をしたり、プランターのズッキーニや茄子、ケイトウ等花の世話をする方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせて一緒に買い物に行っていたが現在はスタッフが依頼された物を購入して来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と相談し一週間に一回連絡されてくる方もいらっしゃる。また、用事があったかかってきた際にはご本人様に電話をおつなぎしたりしている。年賀状やメッセージカードが届いたりしている方もいる。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけや、利用者様の作品を利用者様がいつでも見れるようにユニット内に展示し誰もが楽しめるように空間を作っている。	共同生活やケアに合うように席の配置を工夫している。入居者が描いたお雛様の絵手紙や桜の貼り絵、シマエナガ(法人のシンボル)等が飾られている。「せせらぎ合唱団」と名乗り、毎日入居者の指揮で童謡や演歌を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などのところどころに椅子や、リクライニングチェアを置いてくつろげる空間づくりをし利用していただいている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真などを、入居前にお話をし入居時に持ってきてもらい飾ったりし居心地のよい場所を作っている。	電動ベッドや洗面台、チェスト等が備え付けられ、テーブルや椅子、テレビ等の馴染んだ物を持込んでいる。母親や夫、家族、愛犬の写真等が飾ってある。昼寝や絵手紙を描いたりしてゆったりと過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は歩行の妨げにならないように配置し、トイレの表示を分かりやすくしている。居室の表札は本人が気に入るような工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	株式会社 ウエル		
事業所名	なんてん伊在荘	ユニット名	せせらぎ
所在地	宮城県仙台市若林区蒲町5-1		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 17 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 6 年 3 月 22 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

5類になり少しづつ面会を玄関先で行える様になってきました。居室内には、入れる制限を社内で設けているためほとんどの方は、玄関先での対面面会をお願いしています。事業所内での事業所内での楽しいで頂けるような行事等を考え実施しております。その様子をブログを活用したり毎月のご家族のお手紙に載せることで現状のお知らせをしております。また、会社のホームページにブログを載せているためそちらの方をご覧になって申し込みに来ていただけたたりしております。今後も、楽しんで頂けている様子を伊在荘側からも発信しながら安心安全に楽しく過ごしていただける様にしたいと思っております。ご家族様・地域の方をお招きしての行事が行える様に機会を作りたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道4号線バイパスの東側に位置するホームは、1階に2ユニットが、2階に1ユニットと事務所がある。伊在地区から蒲町地区に移転して3年になろうとしていて、地域との繋がりが少しずつ広がっている。ホーム内で集めたプルタブを届けた縁が繋がりに、隣の保育園の夏祭りに参加した。ホームの夕涼み花火大会の様子や、入居者が参加した七夕飾りが一番町商店街に飾られている様子をブログで見ることが出来る。すべての入居者の事を知る為に、職員は3ユニットを回り入居者に朝の挨拶をする事が日課となっている。清潔に整えられた各ユニットは歌声や笑い声が聞かれ、お互いを思い合う優しい介護を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘**)「ユニット名 **せせらぎ** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をもとに毎年、ユニットの理念を会議などの職員同士の話し合いを通して構築しユニットの見えるところに掲示し共有している。	11月を年度当初とし、法人理念や毎年検討しているユニット理念を朝礼で唱和している。出来ないからと諦める事なく、具体策を本人目線で工夫している。手に触れ足を擦り、不安な気持ちに寄り添っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しずつ地域の行事が行えるようになってきて、町内会にも参加させて、貰えるようになってきている。連合会長さんにも、お声がけを頂いている。また、交番にも入居者様の写真をファイリングしおかせていただいている。	保育園児がホーム駐車場で神輿担ぎを披露し、ラムネや水ヨーヨー等のお土産をくれた。入居者は園児達の手を取り、折り紙を渡して大喜びだった。2～3か月に1回のネイルボランティアの来訪を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	三幸学園さんの施設実習を受け入れや、中学生の職場体験などの受け入れ行いながら、認知症を理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	伊在サロンという形で運営推進会議を行っていたが現在はコロナ禍で実際に集まる事が出来ないが議事録などを送り地域の方やご家族の方と情報交換を行っている。意見などを運営に活かさせて頂いている。	「伊在サロン」として書面会議を年6回開催した。メンバーの町内会長や地域包括職員、家族へ会議録を送付した。行事の工夫に「イベントの楽しさが伝わった」やケアへの労いの言葉等の意見があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録をお送りし事業所の現状をお伝えしている。地域のケア会議方には、参加し情報交換を行っている。	市発行のオムツ券の申請代行をしている。区役所主催の8050問題を取り上げた研修や地域包括主催の「虐待について」の研修に参加した。地域包括職員から認知症カフェへの誘いがあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルや書物・ネットなどの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また、拘束になりうる事態を日ごろの業務の中でスタッフ間で話し合っている。	研修や委員会活動に力を入れている。年4回の委員会で3つの要件や11項目を毎回復習している。職員同士で原因や背景を探る話し合いをし、身体拘束をしないケアに努めている。外出傾向のある方もおり、近隣住民や交番の協力を貰っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所のマニュアルや書物・ネットなどの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また現場でも注意をお互いに呼びかけている。	「虐待の芽チェックリスト」を使い振り返りを行っている。管理者はスピーチロックについて問い掛け、言い換え言葉の提案をしている。ユニットリーダーが職員の迷いを受け止め、安心してケアに当たられるよう話を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している利用者様もいるため権利擁護に関する研修にはスタッフが平等に参加できる様に配慮し事業所全体で情報を共有している。各ユニットに資料を配布して、スタッフ全員が見れる様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご家族様と話し合いをしたり契約時は時間を設け重要事項説明書をもとに説明を行い理解頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のご意見や面会時にご家族や地域から意見を頂き、みんなで話し合い早期解決に努めている。	「娘の結婚式に参列させたい」の要望に、両人や親族が晴れ着のまま来訪し、タキシード姿の本人や入居者、職員が迎え入れた。家族の意見を検討工夫し、ホームのケアの質の向上と一体感の共有に努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回リーダー会議や全体会議を行い、スタッフからの意見を取り上げている。普段からのスタッフ間のコミュニケーションも充実させ意見を出しやすい環境作りを行っている。	医療に特化した送りノートを提案し、効率化に繋がった。錠剤が飲み込みにくい方の為に潰す器具を購入した。実務者研修の全額負担や、ケアマネジャー資格更新の一部負担等の制度がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表を活用している。個人面談を行い目標設定し定期的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の資格制度をすすんで活用してもらえるように声がけし、社内や外部の研修には平等に参加できるようにシフト調整を行っている。新人教育には、新人教育のマニュアルを活用し統一した育成が出来るようにしている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し情報交換をしたり、同業者が行う研修会に参加している。また、社内でも他事業所合同での研修会を少しづつ行っている。	法人の職員が参加する研修会で勉強や交流をしている。専門学校施設実習生を受け入れた。調剤薬局の薬剤師の来訪時に服薬の相談をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に入居前に不安な事・要望などを聞き出したりご家族様からも聞いたりして入居後の関係作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様から、どの様に過ごして頂きたいかなど要望を聞きながら、ご家族様の不安などを聞き出し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査の際にご家族から話を伺った情報・前のケアマネージャーの情報をもとにケアプランを作成しご本人にあったケアプランを作成していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることをお願いし生きがいへと繋げている。ユニット内でもそれぞれ得意な役割として共に暮らしている実感を感じていただける様に対応している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関係を把握しながら、来所時には普段の様子を報告し、ケアプラン作成時にはご家族の意見も取り入れている。また、協力体制してもらえる事を確認しながら行っている。また、毎月本人の様子を手紙で郵送している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、本人のなじみの物を用意して頂き安心できる環境を作っている。また、面会が難しい場合などの方には、電話にてお話して頂いている。	友人や家族、親戚、兄弟等が面会に来る。ジルさんと呼ばれる美容師の1ヵ月半毎の来訪を楽しみにしている。入居者が他ユニットを相互に訪問できるように支援している。仏壇に向い亡き妻や両親に挨拶をする方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の相性を考え席のレイアウトを工夫し利用者様同士が関わりを持てる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	薬の調整入院された方で、入院期間が長くなり施設退所された方でもご家族から相談の電話が入ることもありご家族の不安等を聞いている。また、本人の状態を把握し状態により今後についての話し合いをしたりするケースがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から本人の思いを汲みとりケアプランに活かしている。本人が困難な場合は、うれしい時の表情だったりを意向に繋げたり、ご家族に聞いている。	入居者一人ひとりを把握し、思いを引き出している。使った器具の洗浄を気にする元ケーキ屋さんに、「もう洗った」と伝えて安心してもらっている。家族の協力を得て、昔の行動や好み、呼称等を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を利用したり、本人との日ごろの会話から得た情報やご家族に聞いた情報などを活かし生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や個人記録に一日の様子を記録して把握している。特に本人の様子変化については詳しく記録してミーティング等でも情報を共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングでモニタリングを行っている。スタッフから意見をもらい、ご本人やご家族に聞いたりしながら意見をもらってケアプランに反映させている。	6ヵ月毎や状態変化時に見直している。「歩けるように」の家族の要望で、足踏み体操10回をプランに入れた。本人希望の家事を計画に入れた方は割烹着を着て調理に臨んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にはケアプランを意識した記録を記入し特に変化があるときには詳しく記入しスタッフ間で共有している。申し送り・送りノートを活用し、それを実践しながらミーティングにてカンファレンスをしケアの方向性を統一している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	保育園の行事に参加出来る様になってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年から、近隣の保育園の方から夏祭りに参加させてもらい、少しずつ交流を図れるようになってきている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を希望しているか往診や通院時等にご家族やご本人の考えを聞き希望に添えるようにしている。	月2回の訪問診療が2カ所あり、全入居者が診察を受けている。専門医受診は協力医の紹介状を持参し、家族対応が基本で職員が同行する事もある。看護師が毎週来訪し、本人や家族の安心となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回、訪看を利用し日ごろの様子を伝え相談しアドバイスを頂いている。また、それを主治医に伝え情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを病院に提出し、面会ができない為電話連絡をし状態を聞いている。また、ご家族へも手紙や電話連絡しその後の動きについてスムーズに対応できるようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意書を説明しご家族の考えを聞き同意を得ている。また、往診の医師が判断した時はご家族に医師から説明して頂き確認している。ご家族も気持ちが変わる場合があるのでその都度確認している。	入居時に重度化した場合の説明をしている。看取り期に入った時は医師から説明がある。半年で5名の方を看取った。管理者が協力医から看取りについての話を聞き、職員に伝達研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変したときの連絡順番はいつも確認している。急変時の対応マニュアルをミーティング時などに改めて見直ししている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行を行っているが、地域の方へご協力願いやご家族様参加へとは出来ていない。	夜間の火災と水害の訓練を行った。「2階からの避難は更に検討が必要」や「転倒や転落、離脱等に備える見守りの役割が重要」等の意見があった。3月に地域住民に知らせる消防署立会いの訓練を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の排泄介助の際の声がけや対応に配慮しつつも尊敬の念を持ち対応している。		「さん」付けが多いが、「会長」や「長さん」等の方もいる。職員は入居者に架空の名前で呼び掛けられても、話を合わせてその役を演じている。トイレ誘導時は「ちょっと行きましょうか」等の声がけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方・その方に合った話しやすい声がけの仕方や選択しやすい言葉を選びジェスチャーを交え、話や答える様に行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の一日の流れを把握してそれぞれのペースに合わせたケアを行っている。また、会話の中から本人のやりたい事を探り出来るだけ希望に添えるように行っている。体調やその日の気分で出来ない場合は予定を変えて希望に沿ってケアを行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択できる方には自ら書いていただき難しい方には選びやすい方法で選んで頂いている。時々、ネイルボランティアが来て、利用者様へネイルをしてくださる。			
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事だけではなく食後にも、ご本人様が出る食器拭き・テーブル拭き・食器の片づけなど役割を持っていただいている。		朝夕食は配食業者を利用し、昼食は好きな物を作っている。ハンバーガーやカップ麺等が人気である。3ユニット合同のバーベキュー芋煮会で、男性の入居者が一緒に作り、皆で楽しんだ。ホットケーキを焼く方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他業者からバランスの取れた食事を提供し、ミキサー食やおかゆ食やムース食など利用者一人一人に合わせた形状にし提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来る方には声がけして自立支援を行っている。また、マウスウォッシュなどを使って口腔ケアを行っている。口腔ケアを利用している方は、衛生士さんからアドバイスを頂きながら行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導やオムツ交換を行っている。	リハパンの方が多く、パッドの汚れが無いよう誘導している。ほぼ寝たきりの方が2人介助でトイレで排泄出来た。夜間は歩行を見守る方やセンサーを使って立ち上がり時から介助する方等それぞれの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼る前に、水分不足ではないか？お腹の張りはどうか？などを見ながら、オリゴ糖や冷たい牛乳などで排便を促している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者様の希望や状態に合わせて時間を調整し利用者様の気持ちによって変更している。	入浴は週2回である。湯は一人ひとり換え、温度は好みに合わせている。本人の前に立たない、タオルを掛ける等で羞恥心に配慮している。浴室や脱衣所は暖められている。歌を歌い、職員と合唱する事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さまの要望や体調に合わせて休息して頂いたり夜間の安眠のため室温管理、見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の服用しているお薬の成分や効能などをスタッフ一人一人把握し状況に応じて主治医や薬剤師に相談し、投薬している。服薬変更時は送りノートなどにも記載しスタッフ全員が把握出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さまの出来る事などを把握し洗濯・食器拭き・掃除・植木の水やりなど無理のない範囲でお願いすることで意欲に繋げている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人ごみを裂けて頂いたりとお願ひしながらではありますが、個人的な外出支援についてはご家族様と相談し外出して頂いている。全体では季節が感じられるように野外での企画を考え提供している。	近くの中学校やゴルフ場に散歩し桜を見た。散歩帰りに自販機でジュースを買う方や、家族と墓参りや通院等に出かける方がいる。ペランダで日光浴をしたり、プランターのズッキーニや茄子、ケイトウ等花の世話をする方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせて一緒に買い物に行っていたが現在はスタッフが依頼された物を購入して来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と相談し一週間に一回連絡されてくる方もいらっしゃる。また、用事があったかかってきた際にはご本人様に電話をおつなぎしたりしている。年賀状やメッセージカードが届いたりしている方もいる。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけや、利用者様の作品を利用者がいつでも見れるようにユニット内に展示し誰もが楽しめるように空間を作っている。	共同生活やケアに合うように席の配置を工夫している。入居者が描いたお雛様の絵手紙や桜の貼り絵、シマエナガ(法人のシンボル)等が飾られている。「せせらぎ合唱団」と名乗り、毎日入居者の指揮で童謡や演歌を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などのところどころに椅子や、リクライニングチェアを置いてくつろげる空間づくりをし利用していただいている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真などを、入居前にお話をし入居時に持ってきてもらい飾ったりし居心地のよい場所を作っている。	電動ベッドや洗面台、チェスト等が備え付けられ、テーブルや椅子、テレビ等の馴染んだ物を持込んでいる。母親や夫、家族、愛犬の写真等が飾ってある。昼寝や絵手紙を描いたりしてゆったりと過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は歩行の妨げにならないように配置し、トイレの表示を分かりやすくしている。居室の表札は本人が気に入るような工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300562		
法人名	株式会社 ウエル		
事業所名	なんてん伊在荘	ユニット名	あおぞら
所在地	宮城県仙台市若林区蒲町5-1		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 17 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 6 年 3 月 22 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

5類になり少しづつ面会を玄関先で行える様になってきました。居室内には、入れる制限を社内で設けているためほとんどの方は、玄関先での対面面会をお願いしています。事業所内での事業所内での楽しいで頂けるような行事等を考え実施しております。その様子をブログを活用したり毎月のご家族のお手紙に載せることで現状のお知らせをしております。また、会社のホームページにブログを載せているためそちらの方をご覧になって申し込みに来ていただけたたりしております。今後も、楽しんで頂けている様子を伊在荘側からも発信しながら安心安全に楽しく過ごしていただける様にしたいと思っております。ご家族様・地域の方をお招きしての行事が行える様に機会を作りたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道4号線バイパスの東側に位置するホームは、1階に2ユニットが、2階に1ユニットと事務所がある。伊在地区から蒲町地区に移転して3年になろうとしていて、地域との繋がりが少しずつ広がっている。ホーム内で集めたプルタブを届けた縁が繋がりに、隣の保育園の夏祭りに参加した。ホームの夕涼み花火大会の様子や、入居者が参加した七夕飾りが一番町商店街に飾られている様子をブログで見ることが出来る。すべての入居者の事を知る為に、職員は3ユニットを回り入居者に朝の挨拶をする事が日課となっている。清潔に整えられた各ユニットは歌声や笑い声が聞かれ、お互いを思い合う優しい介護を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **なんてん伊在荘**)「ユニット名 **あおぞら** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をもとに毎年、ユニットの理念を会議などの職員同士の話し合いを通して構築しユニットの見えるところに掲示し共有している。	11月を年度当初とし、法人理念や毎年検討しているユニット理念を朝礼で唱和している。出来ないからと諦める事なく、具体策を本人目線で工夫している。手に触れ足を擦り、不安な気持ちに寄り添っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	少しづつ地域の行事が行えるようになってきて、町内会にも参加させて、貰えるようになってきている。連合会長さんにも、お声がけを頂いている。また、交番にも入居者様の写真をファイリングしおかせていただいている。	保育園児がホーム駐車場で神輿担ぎを披露し、ラムネや水ヨーヨー等のお土産をくれた。入居者は園児達の手を取り、折り紙を渡して大喜びだった。2～3か月に1回のネイルボランティアの来訪を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	三幸学園さんの施設実習を受け入れや、中学生の職場体験などの受け入れ行いながら、認知症を理解して頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	伊在サロンという形で運営推進会議を行っていたが現在はコロナ禍で実際に集まる事が出来ないが議事録などを送り地域の方やご家族の方と情報交換を行っている。意見などを運営に活かさせて頂いている。	「伊在サロン」として書面会議を年6回開催した。メンバーの町内会長や地域包括職員、家族へ会議録を送付した。行事の工夫に「イベントの楽しさが伝わった」やケアへの労いの言葉等の意見があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録をお送りし事業所の現状をお伝えしている。地域のケア会議方には、参加し情報交換を行っている。	市発行のオムツ券の申請代行をしている。区役所主催の8050問題を取り上げた研修や地域包括主催の「虐待について」の研修に参加した。地域包括職員から認知症カフェへの誘いがあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所のマニュアルや書物・ネットなどの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また、拘束になりうる事態を日ごろの業務の中でスタッフ間で話し合っている。	研修や委員会活動に力を入れている。年4回の委員会です3つの要件や11項目を毎回復習している。職員同士で原因や背景を探る話し合いをし、身体拘束をしないケアに努めている。外出傾向のある方もおり、近隣住民や交番の協力を貰っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所のマニュアルや書物・ネットなどの情報をもとに勉強会の機会を設けている。また現場でも注意をお互いに呼びかけている。	「虐待の芽チェックリスト」を使い振り返りしている。管理者はスピーチロックについて問い掛け、言い換え言葉の提案をしている。ユニットリーダーが職員の迷いを受け止め、安心してケアに当たられるよう話を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している利用者様もいるため権利擁護に関する研修にはスタッフが平等に参加できる様に配慮し事業所全体で情報を共有している。各ユニットに資料を配布して、スタッフ全員が見れる様にしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、ご家族様と話し合いをしたり契約時は時間を設け重要事項説明書をもとに説明を行い理解頂いている。			
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のご意見や面会時にご家族や地域から意見を頂き、みんなで話し合い早期解決に努めている。	「娘の結婚式に参列させたい」の要望に、両人や親族が晴れ着のまま来訪し、タキシード姿の本人や入居者、職員が迎え入れた。家族の意見を検討工夫し、ホームのケアの質の向上と一体感の共有に努めている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回リーダー会議や全体会議を行い、スタッフからの意見を取り上げている。普段からのスタッフ間のコミュニケーションも充実させ意見を出しやすい環境作りを行っている。	医療に特化した送りノートを提案し、効率化に繋がった。錠剤が飲み込みにくい方の為に潰す器具を購入した。実務者研修の全額負担や、ケアマネジャー資格更新の一部負担等の制度がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表を活用している。個人面談を行い目標設定し定期的に取り組んでいる。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の資格制度をすすんで活用してもらえるように声がけし、社内や外部の研修には平等に参加できるようにシフト調整を行っている。新人教育には、新人教育のマニュアルを活用し統一した育成が出来るようにしている。			
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し情報交換をしたり、同業者が行う研修会に参加している。また、社内でも他事業所合同での研修会を少しつつ行っている。	法人の職員が参加する研修会で勉強や交流をしている。専門学校施設の施設実習生を受け入れた。調剤薬局の薬剤師の来訪時に服薬の相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に入居前に不安な事・要望などを聞き出したりご家族様からも聞いたりして入居後の関係作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様から、どの様に過ごして頂きたいかなど要望を聞きながら、ご家族様の不安などを聞き出し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の実態調査の際にご家族から話を伺った情報・前のケアマネージャーの情報をもとにケアプランを作成しご本人にあったケアプランを作成していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることをお願いし生きがいへと繋げている。ユニット内でもそれぞれ得意な役割として共に暮らしている実感を感じていただける様に対応している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関係を把握しながら、来所時には普段の様子を報告し、ケアプラン作成時にはご家族の意見も取り入れている。また、協力体制してもらえる事を確認しながら行っている。また、毎月本人の様子を手紙で郵送している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際、本人のなじみの物を用意して頂き安心できる環境を作っている。また、面会が難しい場合などの方には、電話にてお話して頂いている。	友人や家族、親戚、兄弟等が面会に来る。ジルさんと呼ばれる美容師の1ヵ月半毎の来訪を楽しみにしている。入居者が他ユニットを相互に訪問できるように支援している。仏壇に向い亡き妻や両親に挨拶をする方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の相性を考え席のレイアウトを工夫し利用者様同士が関わりを持てる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	薬の調整入院された方で、入院期間が長くなり施設退所された方でもご家族から相談の電話が入ることもありご家族の不安等を聞いている。また、本人の状態を把握し状態により今後についての話し合いをしたりするケースがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から本人の思いを汲みとりケアプランに活かしている。本人が困難な場合は、うれしい時の表情だったりを意向に繋げたり、ご家族に聞いている。	入居者一人ひとりを把握し、思いを引き出している。使った器具の洗浄を気にする元ケーキ屋さんに、「もう洗った」と伝えて安心してもらっている。家族の協力を得て、昔の行動や好み、呼称等を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を利用したり、本人との日ごろの会話から得た情報やご家族に聞いた情報などを活かし生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や個人記録に一日の様子を記録して把握している。特に本人の様子変化については詳しく記録してミーティング等でも情報を共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングでモニタリングを行っている。スタッフから意見をもらい、ご本人やご家族に聞いたりしながら意見をもらってケアプランに反映させている。	6か月毎や状態変化時に見直している。「歩けるように」の家族の要望で、足踏み体操10回をプランに入れた。本人希望の家事を計画に入れた方は割烹着を着て調理に臨んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にはケアプランを意識した記録を記入し特に変化があるときには詳しく記入しスタッフ間で共有している。申し送り・送りノートを活用し、それを実践しながらミーティングにてカンファレンスをしケアの方向性を統一している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	保育園の行事に参加出来るようになってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昨年から、近隣の保育園の方から夏祭りに参加させてもらい、少しずつ交流を図れるようになってきている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を希望しているか往診や通院時等にご家族やご本人の考えを聞き希望に添えるようにしている。	月2回の訪問診療が2カ所あり、全入居者が診察を受けている。専門医受診は協力医の紹介状を持参し、家族対応が基本で職員が同行する事もある。看護師が毎週来訪し、本人や家族の安心となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回、訪看を利用し日ごろの様子を伝え相談しアドバイスを頂いている。また、それを主治医に伝え情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを病院に提出し、面会ができない為電話連絡をし状態を聞いている。また、ご家族へも手紙や電話連絡しその後の動きについてスムーズに対応できるようにしている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意書を説明しご家族の考えを聞き同意を得ている。また、往診の医師が判断した時はご家族に医師から説明して頂き確認している。ご家族も気持ちが変わる場合があるのでその都度確認している。	入居時に重度化した場合の説明をしている。看取り期に入った時は医師から説明がある。半年で5名の方を看取った。管理者が協力医から看取りについての話を聞き、職員に伝達研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変したときの連絡順番はいつも確認している。急変時の対応マニュアルをミーティング時などに改めて見直ししている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行を行っているが、地域の方へご協力願いやご家族様参加へとは出来ていない。	夜間の火災と水害の訓練を行った。「2階からの避難は更に検討が必要」や「転倒や転落、離脱等に備える見守りの役割が重要」等の意見があった。3月に地域住民に知らせるの消防署立会いの訓練を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の排泄介助の際の声かけや対応に配慮しつつも尊敬の念を持ち対応している。	「さん」付けが多いが、「会長」や「長さん」等の方もいる。職員は入居者に架空の名前で呼び掛けられても、話を合わせてその役を演じている。トイレ誘導時は「ちょっと行きましょうか」等の声かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方・その方に合った話しやすい声かけの仕方や選択しやすい言葉を選びジェスチャーを交え、話や答える様に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の一日の流れを把握してそれぞれのペースに合わせたケアを行っている。また、会話の中から本人のやりたい事を探り出来るだけ希望に添えるように行っている。体調やその日の気分が出来ない場合は予定を変えて希望に沿ってケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択できる方には自ら書いていただき難しい方には選びやすい方法で選んで頂いている。時々、ネイルボランティアが来て、利用者様へネイルをしてくださる。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事だけではなく食後にも、ご本人様が出る食器拭き・テーブル拭き・食器の片づけなど役割を持っていただいている。	朝夕食は配食業者を利用し、昼食は好きな物を作っている。ハンバーガーやカップ麺等が人気である。3ユニット合同のバーベキュー芋煮会で、男性の入居者が一緒に作り、皆で楽しんだ。ホットケーキを焼く方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	他業者からバランスの取れた食事を提供し、ミキサー食やおかゆ食やムース食など利用者一人一人に合わせた形状にし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来る方には声かけして自立支援を行っている。また、マウスウォッシュなどを使って口腔ケアを行っている。口腔ケアを利用している方は、衛生士さんからアドバイスを頂きながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導やオムツ交換を行っている。	リハパンの方が多く、パッドの汚れが無いよう誘導している。ほぼ寝たきりの方が2人介助でトイレで排泄出来た。夜間は歩行を見守る方やセンサーを使って立ち上がり時から介助する方等それぞれの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼る前に、水分不足ではないか？お腹の張りはどうか？などを見ながら、オリゴ糖や冷たい牛乳などで排便を促している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者様の希望や状態に合わせて時間を調整し利用者様の気持ちによって変更している。	入浴は週2回である。湯は一人ひとり換え、温度は好みに合わせている。本人の前に立たない、タオルを掛ける等で羞恥心に配慮している。浴室や脱衣所は暖められている。歌を歌い、職員と合唱する事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さまの要望や体調に合わせて休息して頂いたり夜間の安眠のため室温管理、見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の服用しているお薬の成分や効能などをスタッフ一人一人把握し状況に応じて主治医や薬剤師に相談し、投薬している。服薬変更時は送りノートなどにも記載しスタッフ全員が把握出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さまの出来る事などを把握し洗濯・食器拭き・掃除・植木の水やりなど無理のない範囲でお願いすることで意欲に繋げている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人ごみを裂けて頂いたりお願いしながらではありますが、個人的な外出支援についてはご家族様と相談し外出して頂いている。全体では季節が感じられるように野外での企画を考え提供している。	近くの中学校やゴルフ場に散歩し桜を見た。散歩帰りに自販機でジュースを買う方や、家族と墓参りや通院等に出かける方がいる。ペランダで日光浴をしたり、プランターのズッキーニや茄子、ケイトウ等花の世話をする方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に合わせて一緒に買い物に行っていたが現在はスタッフが依頼された物を購入して来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と相談し一週間に一回連絡されてくる方もいらっしゃる。また、用事があったかかってきた際にはご本人様に電話をおつなぎしたりしている。年賀状やメッセージカードが届いたりしている方もいる。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけや、利用者様の作品を利用者様がいつでも見れるようにユニット内に展示し誰もが楽しめるように空間を作っている。	共同生活やケアに合うように席の配置を工夫している。入居者が描いたお雛様の絵手紙や桜の貼り絵、シマエナガ(法人のシンボル)等が飾られている。「せせらぎ合唱団」と名乗り、毎日入居者の指揮で童謡や演歌を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などのところどころに椅子や、リクライニングチェアを置いてくつろげる空間づくりをし利用していただいている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真などを、入居前にお話をし入居時に持ってきてもらい飾ったりし居心地のよい場所を作っている。	電動ベッドや洗面台、チェスト等が備え付けられ、テーブルや椅子、テレビ等の馴染んだ物を持込んでいる。母親や夫、家族、愛犬の写真等が飾ってある。昼寝や絵手紙を描いたりしてゆったりと過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は歩行の妨げにならないように配置し、トイレの表示を分かりやすくしている。居室の表札は本人が気に入るような工夫をしている。		